

第6章 科学

オーランにおける新しい神々の奇跡である「科学」について解説します。

6.1 オーランの科学

オーランの科学は、一部の歴史学者からは「エレメント」と呼ばれています。エレメントとは世界を機械的構造ととらえ解釈する考え方のことです。エレメントは、その信仰者である科学者からは「科学」と呼ばれています。

原因と結果の因果関係（リレーション）、原因にあたる要素（エレメント）が判明すれば、その世界で起こりうる結果を予測できるという考え方です。

この世界解釈の信仰者の間では、原因と結果の因果関係には一般性と論理的な整合性が求められることが一般的です。

こちらの世界解釈の方が、近代的な生活を送っているわたしたちには納得しやすいでしょう。

理屈に合わない（合理的でない）ことは、一般的には認められにくく、学術（特に自然科学系の学問）においては、理論の一般性、整合性は強く求められます。

6.2 オーランの科学技術

科学技術とは、科学をその礎とした新しい力です。科学技術は多くの場合、機械と呼ばれる誰かが操ることのできる道具を用いてその力を発揮します。

科学技術の特徴は使用する人を選ばないということと、他の人に対して、その力を平等に分け与えることができるという点です。

しかし、科学の力は未熟な部分が多く、しばしば機械の暴走などによる悲惨な事故があとを立ちません。

科学技術は使用者の精神性とはかかわらずに、同一の力を発揮します。そのため、神殿からはよい力だとは思われていません。

また、多くの場合科学を信仰するものたち中にも、既存の価値観や倫理感覚から大きく外れた行動を起こす過激派が多く、これが原因で科学の印象が悪くな

っております。

彼らは既存の宗教を打倒し、科学による新しい世界を構築することを夢見ています。それゆえ、既存の宗教の善悪観をあえて破壊するような行動をとることを好む傾向にあります。

6.3 機械

機械とは科学技術を世界に具現化した一つの形です。古き神々の信仰者からは魔神の奇跡の産物と理解されています。

初期の機械は兵器として開発されたものが多く、この世界においては、印象が悪いです。

これは、科学の力を知らしめ、奇跡の力をおとしめた事件として名高い事件は、事実上テロリズムであったためです。（未熟な科学の失敗の数々もこれが、科学が眉をひそめられる大きな原因となっています。科学を支持することで得られるメリットが、この事件のため、一般人には認識しにくくなっています。）

この事件以来、一般人と科学の溝は深くなっています。

時を経るにつれて機械の向上、有用性への理解が高まり、次第に人々に受け入れられていきます。

しかし、機械の登場が、生産性の追求を激化し、最後には人間の労働の価値を脅かすようになり、後々には機械が破壊される事件も起こるなど、なかなか機会と人間との間の壁は取り除けないようです。

6.4 オーランの科学分野

オーランの科学技術は、現実世界の我々と比較すると発展途上にあります。世界の法則や歴史が違うため、一概には比較できませんが、おおむねルネッサンス期後期ぐらいです。

コペルニクスにより天動説が説かれ、ガリレオが望

遠鏡をのぞき、月をスケッチするような時代です。

この章では、標準的なオーランの科学水準を記載しますが、この水準にとらわれる必要は必ずしもありません。プレイヤーの合意が取れるのであれば、時代と比較して超技術と思われるようなものを登場させてもよいでしょう。

分野は以下の8つです。

【医学】

人体や病気に関する学問です。人体を観察することで病を調べ、人体を正常に機能するようにすること目的としています。

オーランにおいては、奇跡による治療が現代と比較して、ずっと確実なため、医学はかなり未熟です。加えて、人を解剖することが野蛮であると言われていたため、解剖学もほとんど発達していません。

【薬学】

人体に影響を与える薬品に関する学問です。

科学 技術の分野でなくても、オーランでは一般に広く知られた薬草学と呼ばれる分野もあり、病気の治療には医学よりもポピュラーです。また、医学と異なった範囲として毒薬に関する技術も含まれます。

【化学】

薬品の分離、精製に関する学問です。

化学を学んだ科学者たちの間では、物質が元素から構成されているというのが当たり前の考えになっています。構成する元素が違ったり物質になり、物質が変化するのは構成する元素が変わったからだ認識されています。元素論に関しては、神話の世界観にも近いため、比較的多くの科学者がしています。

オーランにおける化学の最大の生産物は火薬です。火薬の発明により、鉱物の採掘などが楽になるはずですが、科学者が教会と戦うための銃器への利用が多く、平和利用されることはあまりありません。

【物理学】

物体の運動に関する学問です。オーランでは、物

理学は天文学から派生して発達しました。宗教的世界観で説かれている天体を象徴とした神々は、なぜ空に浮いているのかという点で科学者の興味の対象となっています。

天文学は暦の作成の上で、必要な学問であるため、アーティスの神殿で多くの文献を所持し、研究を行っています。こちらは教会の監督のもとで行われている研究であるため異端にはなりません。しかし、学術分野としては物理学に入り、科学者が唱えることとアーティスの神学者が唱える物理法則にはそれほど違いがないこともあります。

天文学のレベルとしてはコペルニクス以前といったところでしょうか。現実世界のニュートンの運動の法則や、重力の法則といった概念はありません。

【工学】

機械や装置に関する学問です。

オーランで一般的に認められている機械は、水車、風車、時計ぐらいです。これらは技術の神アーティスの生み出したものだと言われています。

一方、科学者の考える機械とは、望遠鏡や顕微鏡、簡単な蒸気機関などです。これらはオーランの世界には一般的に認められておらず、所持していると異端とされます。

【数学】

数、論理に関する学問です。

一般人であっても、簡単な四則演算は教えられます。また、0 も負の数もすでに発明されています。これらを使った計算は一般人でも行うことができます。

一方で、一般人が計算できないのは、小数や分数、虚数です。数学を学んだ科学者たちは、関数をあつかうことができ微分や積分、方程式を解くことができます。

数学それ自体だけでは、利用価値は乏しく、数学だけを専門に行っている科学者はほとんどいません。通常はほかの学問とともに学びます。

【哲学】

一般人の間では神は実在しているとされています（実在論）が、科学者の中では、神は後から名付けられただけの存在であるという、唯名論の立場を取るこ

とが多いです。なかには、それでも神の存在を信じた
という敬虔な科学者もいます。

【神学】

神、奇跡に関する学問です。オーランの中で一般人
が最も知っている学問です。当然ながら神殿で盛んに
研究されています。

科学者が神学と言った場合は、神話で語られている
ことが実際に起こった真実なのかどうか、あるいは真
実でないならば、どういった理由で真実がゆがめられた
のかという歴史的な視点での学問になります。

また、奇跡がとういったメカニズムで起きるのかと
いう、奇跡をとりまく物理法則を解明するという研究
もあります。

以上の8つです。

マスターは望むなら新しい分野を考えて、スキルと
して登場させてもよいでしょう。

6. 5 神話と科学の対立

本来であれば、対立は筋違いであり、対立を起こし
ても、明確で有用な答えは得られません。

宗教は世界のあり方を探求するのではなく、生き方
を探求するものであって、本来は世界のあり方に解く
べき問題はありません。

宗教は世界の現象を解き明かすことをその目的と
していません。

一方で、科学は生き方を探求するのではなく、世
界のあり方に解くべき問題をおいています。

つまり、生き方の指針を与えることを目標にしてい
ない代わりに、世界の現象を解き明かすことを目標と
しています。この点だけに着目するのであれば、対立が
発生する余地はありません。

しかし、フィンティアとエLEMENTは異なっていて、
宗教の持つ考え方がフィンティアに基づくのであれ
ば、エLEMENTの台頭はその屋台骨を揺るがす脅威と
なりえます。

ここが対立の源となっています。（そこは割り切っ

て考えるのも一つだと言う派閥もあります。）

したがって、神殿がフィンティアに基づかない主張
を行うことで争いを回避するか、神殿がフィンティア
を主張するし、科学者がエLEMENTを主張することで、
全面戦争をするしかありません。

私たちの生活する現実の世界との大きな違いとし
て、この世界には奇跡が存在することがあげられます。
オーランにおいては大体の現象が、高度に発達したエ
LEMENTによって説明できるのですが、この奇跡とい
う超常的な力だけは解釈ができない状況です。

この科学にとって理解のできない不可思議な力ゆ
え、エLEMENTは、フィンティアに対して絶対的に優
位に立つことができない状況にあります。

理論的に優勢に立てないばかりか、社会的にも不利
な状況にエLEMENTは立たされています。

時を経るにつれて、エLEMENTが発達し、神話論者、
科学論者の中でも、この問題に対し大きく分かれて4
つの派閥が現れていきます。

・フィンティアの熱烈な信奉者

「科学は神学のあり方をゆるがす、悪魔のような存
在だ。滅するべきだ。」

・理性ある信奉者

「たとえ神話が否定されようとも、それによって神
の教えが否定されるわけではない。真実でない物語が
語る言葉が、必ずしも真実ではないとはいえないので
はないか？」

極端なことを言えば、ごく一部の奇跡を使える人間
に頼るよりも、即物的な部分では、科学に頼った方が
効率的であるし、科学でカバーできない部分を補える
ところに宗教に価値があるのではないかと考えるこ
ともできる。」

・エLEMENTの熱烈な支持者

「神学は科学の発展を阻害するインチキだ。正しい、
世の中を知らしめねばならない。」

・理解ある科学者

「確かに神話は本当ではないかもしれないが、その
内容から汲み取れることは人にとって必ずしも害で
はないどころか、場合によっては有益である。加えて、
いかに理知的、理論的な話をしようとしても、理論で

は追及できない部分があるし、その部分は飛躍という点においては、神話と同一だ。であれば、神話の役に立つ部分は積極的にとは行かずとも、ある程度は認めてもよいのではないか。」